

にけーしよん



さかなクン

3/7 ギョギョ!! 「さかなクン」って、すごいね!

タレントの「さかなクン」を招き、幼児、小学生とその保護者、約500名が参加して、「さかなクンの食育普及講演会」(主催、町食育推進会議)が、御荘文化センターで行われました。講演会では、「さかなクン」が、カツオ・養殖タイ・ヒオウギ貝などのイラストを描きながら、それぞれの生態や特徴を楽しく、そして詳しく話すと、会場から驚きの声が上がっていました。また、愛媛大学の学生が、参加者に「ぎょショックカード」(愛媛大学の共同研究チームが開発)をプレゼントしていました。

3/8 小中学生を核に、防災教育を推進!

久良小学校で全校児童と地区住民約60名が参加して、「愛南町における防災教育の推進に関する協定」の締結を記念した「久良防災フォーラム」が行われ、柏小学校教諭の飯田豊一先生の「人・地域のあり方と防災」と題した講演や森伸一郎愛媛大学准教授、高齢者及び小学生、計11名による地震津波災害での体験談を基にした話し合いが行われ、活発な意見交換が行われました。



その中で、森伸一郎愛媛大学准教授が、「自分では経験できない災害の体験談を聞くことで、想像力を働かせることができる。災害時への備え等、対応能力を学ぶことが重要だ。」と強調されました。

3/9 僧都っ子、大活躍!

松野町出身の俳人、芝不器男を顕彰する「第55回不器男忌俳句大会」(2/22)が行われ、僧都小学校3年、宮本竜碧くんの「ざっ草が気をつけしている朝のしも」が小学校低学年の部(約3,760点が応募)で最優秀賞に輝きました。

また、「平成20年度歯・口の健康に関する作品コンクール」のポスター、啓発標語の2部門で、同小4年の佐藤恵さんが、見事、第一位(昨年未の愛媛県審査)となりました。ポスターは、全国審査でも優秀賞に選ばれています。



宮本竜碧くん



佐藤恵さん

愛南こみゆ



2/20 津波が来たら、まず、逃げよう!

柏小学校5・6年生が、過去の自然災害等での先人の経験や知恵をまとめた「四国防災八十八話」を活用し、「命の大切さ」を学ぶ授業を行っていました。5年生の授業では、高知県土佐市と徳島県牟岐町の津波被害の話、「もし、津波が来たら」を題材にどう自分や家族の命を守るべきなのかについて学んでいました。

2/22 響け、私たちの歌声!

御荘文化センターで、「第3回愛南コーラスフェスティバル」(主催、合唱団コスモス)が行われ、町内の少年少女合唱団やコーラス・ラ・ラ・ラのほか、宇和島合唱団、宇和島市民合唱団など計8団体、250名が出演し、踊りや歌を熱唱しました。

また、各団体の異なったハーモニーに、満員の会場から大きな拍手が送られていました。



2/27 親子で楽しく食ベタイ!

町ぎょしょく推進協議会が、子育て支援センター「こあら」に通う親子、19名を対象に、「親子で楽しく魚を食ベタイぎょショック調理講座」を城辺保健福祉センターで行いました。実習では、愛南漁協女性部の皆さんの指導で、真鯛の三枚おろしや鯛飯づくりに挑戦していました。また、幼児たちは、鯛の塩釜焼きにも挑戦し、鯛が卵白と塩で隠れる様子に大きな歓声を上げていました。

3/1 優しさの輪を広げよう!

一本松山村開発センターで、約200名が参加して、「第8回見つめてみよう」人権コンサート(主催、一本松公民館)が行われ、一本松シンガーズ、一本松中学校音楽部ほか、計9団体が出演し、美しい楽器の音色や自慢の歌声に乗せ、人権の大切さをアピールしました。また、一本松小学校6年生が、手話を交えた人権劇の中で、優しい気持ちで友に接することの大切さを発表しました。

今後、この思い、優しさの輪が多くの方に伝わることを願いたいと思います。

